



●目次

はじめに 伝統技法研究会（安達幸一・遠藤裕子・大平秀和・藤田靖子）……2

1・漆喰の歴史

左官仕上げの変遷と漆喰彫刻 斎藤金次郎……4
建築装飾を担った人々 遠藤裕子……14

2・和の漆喰

土蔵の修復現場に学ぶ技法 加藤信吾 司会・伝統技法研究会……16

3・洋の漆喰

漆喰と石膏の技法 湯田雄二 ゲスト・斎藤金次郎 司会・伝統技法研究会……44
漆喰装飾から石膏装飾へ 藤田靖子……50

4・石膏装飾の技法

旧安田楠雄邸・石膏天井飾りの修復過程 十川忠久 司会・伝統技法研究会……68
立教学院11・12号館の石膏模型の製作……74

あとがき 伝統技法研究会（安達幸一・遠藤裕子・大平秀和・藤田靖子）……76

本書は、二〇〇七年（平成十九年）九月から十二月にかけて行われた、第四回伝技塾「和洋漆喰物語」の講義録を大幅に加筆・訂正し、再構成したものです。

第四回伝技塾

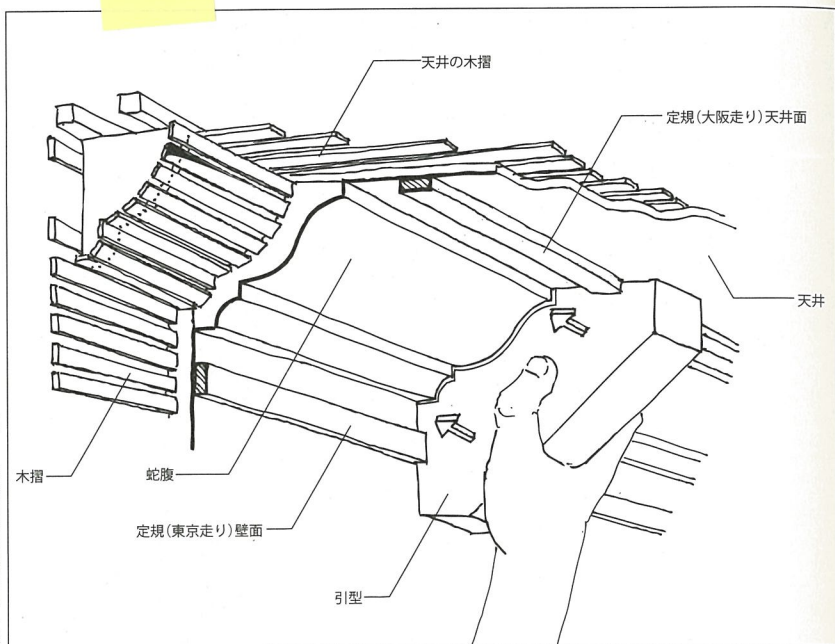
一講 二〇〇七年九月二十六日
二講 二〇〇七年十一月一日
三講 二〇〇七年十月二十九日

●口絵●

- 01——黒漆喰磨き仕上げを施した小林家住宅店蔵の壁
（本文 16 ページ）撮影／植久哲男
- 02,03——石膏装飾が天井を彩る旧安田楠雄邸応接間
（本文 68 ページ）撮影／小野吉彦
- 04——石膏の引き物と彫刻を駆使した湯田雄二邸の天井中心飾り
（本文 44 ページ）撮影／大平秀和

・表紙——旧安田邸石膏彫刻（修理前）
撮影／伊郷吉信
・裏表紙——小林家店蔵の屋根漆喰
撮影／植久哲男

図1 漆喰蛇腹の現場引き工法



塗りの上日に仕上げる漆喰を塗ります。この時は一気に仕上げるので一人が引き、一人が留め合わせ(※③)を行い、仕上げます。司会 漆喰はすぐには乾きませんね。漆喰の場合は、次の工程に行くまでのくらしい時間をかけるのですか。

湯田 下塗りしてから、約一週間かかります。下塗りが乾かないと、なかなかうまく引き取れません。

一方、石膏は施工中に固まらないよう、早く作業しないといけません。石膏なら現場で一週間くらいでできる工事が、漆喰だと一カ月くらいかかります。漆喰は昔の工法です。

※③ 二方向からの部材がコーナーで出会う時、各断面を見せないよう両方の部材を「それぞれ四十五度に」細工して合わせる。

て折り曲げてから取り付けます。

司会 引型は、漆喰も石膏も同じなのでしょうか。

湯田 型は全く違います。石膏の場合は簡単なんです。一枚のトタンを切り込むだけです(写真5)。引いた時に傷にならないよう、きれいにやすりをかけて、とことんサンドペーパーをかけます。

司会 やはり石膏と漆喰の違いが大きくあるわけですね。

湯田 そうですね。漆喰は手間もかかるし、型をつくってそれで現場で引くから大変です。司会 漆喰を現場で引く時の手順を教えてくださいませんか。

湯田 まず、定規段取りをします。定規(東京走り・※②)を張らなくてははいけない。ほか定規を使って、墨を出して定規を張りますが、壁仕上りの厚みを出してから糸を張って定規を張る作業が必要です。この時に、直角でなくてははいけない。曲がってははいけません。さらに正確にやるには、天井にもう一つ、大阪走り(※②)という定規を張ります。壁と天井の二カ所に張るわけです(図1)。

定規を張る時には、張り漆喰といって、普通の漆喰ではない、もっともつと糊の強いものを使います。普通の漆喰では乾いても留まらないので、張り漆喰で定規を押さえます。この漆喰は、三〇cm間隔で置きます。

司会 引く時は何段階かに分けて塗り重ねるのですか。

湯田 小さいものでも、一回で厚塗りはできません。漆喰の場合は三工程(下塗り、麻トンプを打ってから中塗り、上塗り)くらいに分けて塗り付けをするんです。下塗りの中塗りでは、厚みを付けるため砂漆喰を塗ります。下塗りでは漆喰一に対して〇・一の砂を入れ、次に一対〇・五の割合で塗ります。中塗りでは一対一と、漆喰と同量の砂を入れ、中

※② 東京走りは幅一寸(三〇mm)厚き五分(十五mm)の定規で、漆喰現場引きの時、壁の定規として使う。大阪走りは幅一寸二分(三六mm)厚き三・五分(二〇・五mm)の定規で、漆喰現場引きの時、天井の定規として使うほか、腰壁押さえに使う。

